福井県立美術館 2014

美術館だより

MUSEUM NEWS Vol.144

contents

〈展覧会紹介〉「福井の小コレクター運動とアートフル勝山の歩み　[2～3]
ー中上光雄・陽子コレクションによるー」
〈展覧会紹介〉「東山魁夷と信州ゆかりの作家たち　[4～5]
―長野県信濃美術館 東山魁夷館コレクションよりー」
〈イベント報告〉真宗の美―親鸞と福井、ゆかりの名宝―　[6]
それゆけ！ブブ広報部隊　菱田春草「落葉」偵察日記　補足　[6]
それゆけ！ブブ広報部隊　菱田春草「落葉」偵察日記　[7]
平成26年度キッズミュージアム「文字アートをつくろう！」　[8]
福井県立友の会「平成26年度　秋の見学会」　[8]
〈お知らせ〉募集・休館日・貸館情報　[8]

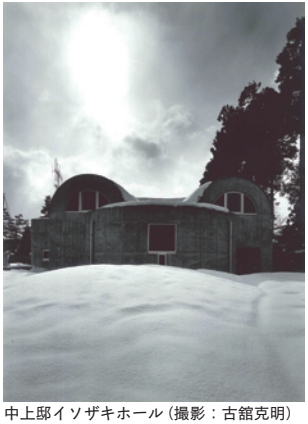
表 紙：瑛九 《黄色いかげ》(部分) 1959年 油彩

アートフル勝山の歩み

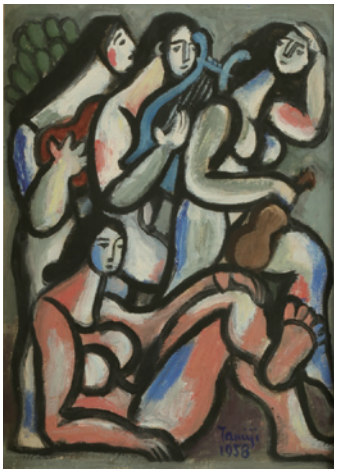
―中上光雄・陽子コレクションによる―

平成27年1月3日㈯▶2月8日㈰

休館日◇1月19日㈪　　開館時間◇午前9時～午後5時（入場は午後4時30分まで）
観覧料◇一般・大学生100円（20名以上の団体は2割引）
※高校生以下、70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料
主　催◇福井県立美術館　　協　力◇中上邸イソザキホール運営委員会

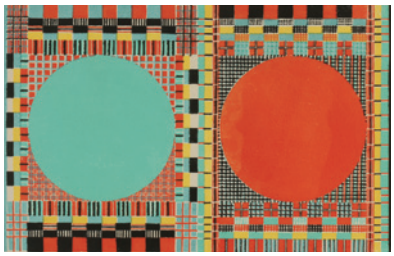

中上邸イソザキホール（撮影：古舘克明）

［関連イベント］
◎座談会「福井の小コレクター運動について語る」
藤本よし子（元創造美育協会福井支部メンバー、銅版画家）、助田憲亮（版画刷り師）、荒井由泰（アートフル勝山の会代表）、山崎義昭（大野靉嘔の会）、西村直樹（福井県立美術館学芸員）
1月18日㈰　午後2時～　福井県立美術館講堂にて

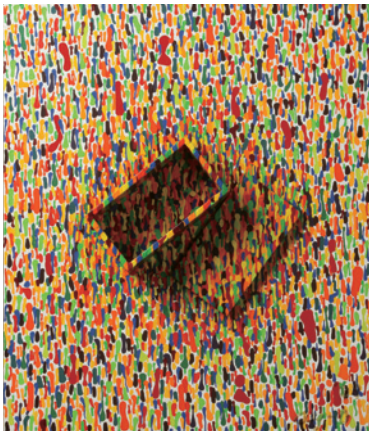

1.

2.

3.


6.

4.


5.

7.

8.

9.

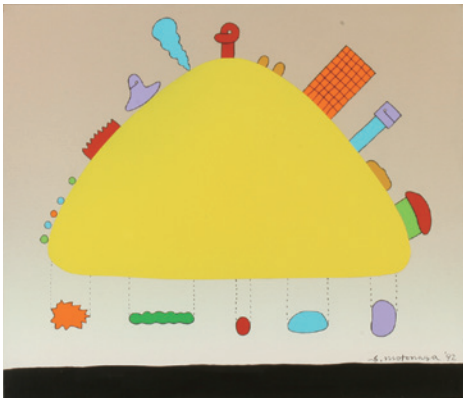
10.

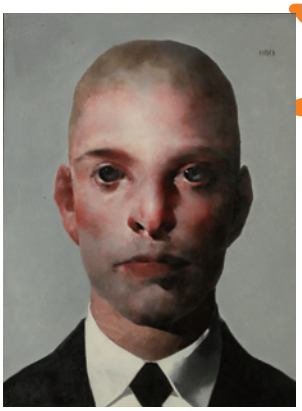
1. 北川民次「音楽家」〈1958〉キャンバスに油彩／2. 泉茂「JF10011-A」〈1971〉キャンバスに油彩／3. 瑛九「作品」〈1959〉キャンバスに油彩／4. 靉嘔「er sic」〈1966〉紙に油彩とコラージュ／5. 靉嘔「WORK 1-C インナーレインボー June 1989」〈1989〉立体、キャンバス／6. オノサト・トシノブ「59-B」〈1959〉リトグラフ／7. 吉原英雄「二つの地平 D-92-23」〈1992〉厚ボール紙にドローイング／8. 池田満寿夫「空の壁」〈1968〉リトグラフ／9. 池田満寿夫「靴の裏側」〈1968〉リトグラフ／10. 難波田龍起「形象 青」〈1991〉キャンバスに油彩

福井の小コレクター運動とアート

［出品作家］北川民次、瑛九、オノサト・トシノブ、泉茂、吉原英雄、靉嘔、池田満寿夫、難波田龍起、岡本太郎、元永定正、木村利三郎、丹阿弥丹波子、磯崎新、野田哲也、関根伸夫、小野隆生、舟越桂、北川健次、土屋公雄等

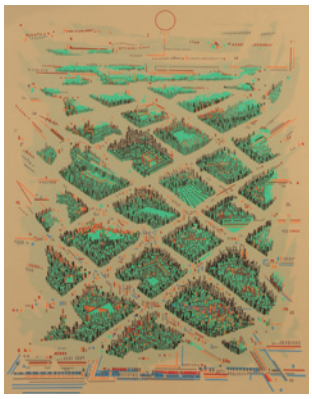
11.

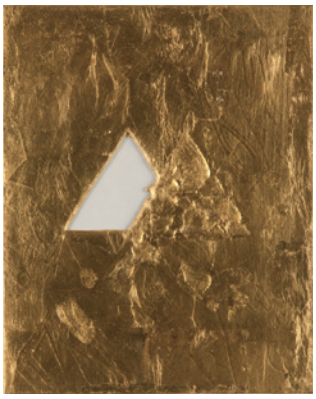

12.

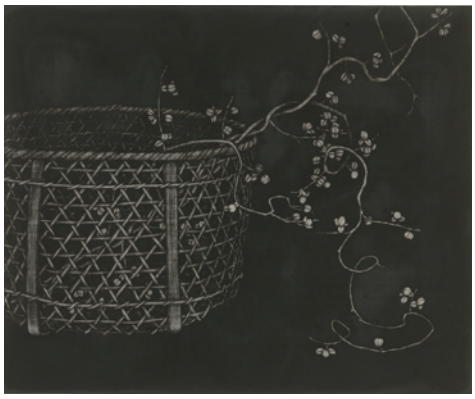

13.

14.

15.


16.


17.


18.

中上光雄・陽子コレクションを一堂に展示

1952年、美術運動家久保貞次郎は、北川民次、瑛九らと共に美術教育団体「創造美育協会」を設立。新しい美術教育に情熱を燃やす教師たちを対象に、創造美育セミナール、児童画の公開審査会などを実施しました。その新しい美術教育運動に草創期から携わっていた福井の教師木水育男と、彼に感化された中村一郎、堀栄治、原田勇、川上高徳、渡邊光一、谷口等、渡邊（大畑）昭子、藤本よし子、野々目桂三ら創造美育協会福井支部のメンバーたちは、久保が提唱する「小コレクター運動」に傾倒していきました。運動は瑛九を中心に、靉嘔や池田満寿夫らデビュー前の作家たちを支援するかたちで進められ、福井の地に、全国的にも稀にみる熱心な小コレクター運動が広がっていったのです。

そして1978年、この運動が浸透した奥越・勝山に「アートフル勝山の会」が発足します。会はアートを身近に感じてもらうことを目的に、定期的に展覧会を開催。中央の作家を招いての講演会の実施や作品の頒布会などを行い、一流の作家と地域の人たちが直接交流する場を提供しました。活動拠点や展覧会会場に自邸を開放し運営を支えた中上光雄・陽子夫妻の尽力もあり、会の活動は継続して行われ、結果的に小コレクター運動の理念はこの地で継承されることとなったのです。

本展は、中上光雄・陽子夫妻が小コレクター運動、そしてアートフル勝山の会の活動を推進する過程で収集してきた作品群を一堂に披露し、福井の小コレクター運動とアートフル勝山の歩みを照射しようとする試みです。

19.

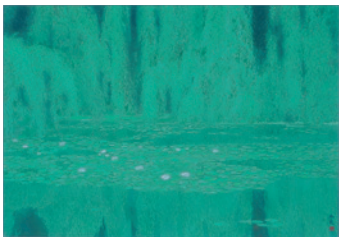
11. 岡本太郎「夢」〈1980〉リトグラフ／12. 元永定正「作品」〈1992〉キャンバスに油彩／13. 小野隆生「肖像図96-2」〈1996〉キャンバスにテンペラ／14. 磯崎新「MOCA #1」〈1983〉シルクスクリーン／15. 野田哲也「Diary:April 7th '96 in Boston」〈1996〉シルクスクリーン、木版／16. 木村利三郎「City 383」シルクスクリーン／17. 関根伸夫「虚実のピラミッド」〈1989〉ミクストメディア、金箔／18. 丹阿弥丹波子「かごとつる草」メゾチント／19. 舟越桂「凍りついた喉」〈1993〉リトグラフ

国民的日本画家、東山魁夷

1.

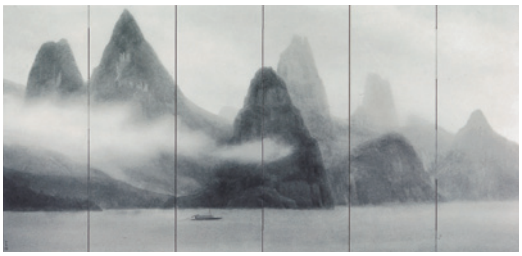
2.

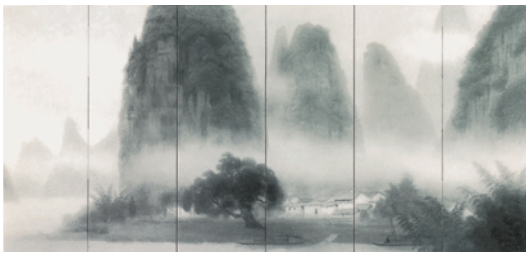
3.


4.

5.

6.


7.



1.東山魁夷《白馬の森》1972（昭和47）年／2.東山魁夷《夕紅》1996（平成8）年／3.東山魁夷《習作 花明り》1964-66（昭和39-41）年／4.東山魁夷《沼の静寂》1983（昭和58）年／5.東山魁夷《習作 晩鐘》1969（昭和44）年／6.東山魁夷《習作 年暮る》1964-66（昭和39-41）年／7.東山魁夷《灕江暮色》1978（昭和53）年

ふるさと知事ネットワークによる美術館交流事業

東山魁夷と信州ゆかりの作家たち

長野県信濃美術館 東山魁夷館コレクションより

平成27年2月20日㈮～3月22日㈰

休館日◇3月2日㈪　開館時間◇午前9時～午後5時（入館は閉館30分前まで）

料　金◇一般・大学生200円

※20名以上の団体は2割引　※高校生以下、70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料

主　催◇福井県立美術館　協　力◇長野県信濃美術館 東山魁夷館

［学芸員によるギャラリートーク］　2/21㈯、3/8㈰、3/14㈯、3/21㈯

各午前11時～　展示室にて　※要本展チケット

自立と分散で日本を変える ふるさと知事ネットワーク

地勢の異なる地方の13県（青森、山形、石川、福井、山梨、長野、三重、奈良、鳥取、島根、高知、熊本、宮崎）が「ローカル・アンド・ローカル」の発想で人や地域の新しいネットワークをつくり、地方自治の新しいモデルをつくるための活動を行っています。

もし、万一、再び絵筆をとれる時が来たなら
―恐らく、そんな時はもう来ないだろうが―
私はこの感動を、いまの気持ちで描こう。
汗と埃にまみれて熊本市の焼跡を走りながら
私の心は締めつけられる思いであった。
（『風景との対話』）

東山魁夷（1908-1999）は戦後を代表する日本画家であり、風景画家です。魁夷が風景画に目覚めるのは、終戦間近に徴兵され、軍事訓練の日々を送っていたとき、小休止中に熊本城から阿蘇の広大な風景を眺めた経験に端を発します。終戦後に風景画家として立った魁夷は日本や北欧、中国へと旅を重ね、そこから得たテーマで多くの作品を描きました。「自然の中で私たちは生かされている」という世界観、「描くこと」は「祈ること」であるという信条のもとに描かれたそれらの作品は、鑑賞者の内なる感情を揺り動かし、今でも多くの人々に愛され親しまれています。

1987（昭和62）年、魁夷は「わたしの作品を育ててくれた故郷ともいうべき長野県」に500余点の作品を寄贈し、それを受けて長野県信濃美術館に併設して東山魁夷館が建設され、魁夷の日本最大のコレクションが所蔵されるようになりました。

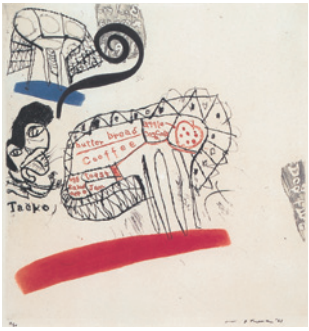
本展では同館の貴重なコレクションのなかから魁夷の代表作《白馬の森》をはじめとする日本画や習作、リトグラフ、装幀本など43点に加え、国際的版画家の池田満寿夫の版画等36点や中村不折、西郷弧月、菊池契月など信州ゆかりの作家たちの作品によって信州の魅力を紹介します。

国際的版画家、池田満寿夫

池田満寿夫

1934（昭和9）年旧満州生まれ、終戦とともに長野県に引き上げる。東京藝術大学への入学を志すが果たせず、版画を制作し自活。この頃、福井にも何度か訪れ作品を制作した。1960（昭和35）年第2回東京国際版画ビエンナーレ展での文部大臣賞受賞を皮切りに受賞を重ね、1965（昭和40）年にニューヨーク近代美術館での日本人としての初の個展のほか、1966（昭和41）年にヴェネツィア・ビエンナーレでの版画部門大賞を受賞し国際的な注目を集めた。1977（昭和52）年に小説「エーゲ海に捧ぐ」で第77回芥川賞を受賞するなど、美術分野にとどまらず多方面で活躍した。1997（平成9）年没。

1.


2.

3.

1.《女・動物たち》1960（昭和35）年　第2回東京国際版画ビエンナーレ展（文部大臣賞）／2.《タエコの朝食》1963（昭和38）年　第33回ヴェネツィア・ビエンナーレ（大賞）／3.《バラはバラ》1966（昭和41）年　第33回ヴェネツィア・ビエンナーレ（大賞）

信州ゆかりの作家たち

西郷孤月《主の救い》
1901（明治34）年

西郷孤月

1873（明治6）年長野県松本生まれ。日本画家。横山大観や菱田春草とともに朦朧体を推し進め、日本美術院を担う俊英として期待されるが、その途上で日本美術院を離れ放浪の生活を送る。1912（大正元）年、台湾で発病、同年日本で死去した。

中村不折《西洋婦人像》
1904（明治37）年頃

中村不折

1866（慶応2）年江戸京橋八丁堀（現・東京都中央区）生まれ。洋画家。1870（明治3）年に母の郷里長野県に移る。1887（明治20）年上京し洋画家・小山正太郎に師事。1901-1904（明治34-37）年絵画修業のため渡欧。本図は留学中に描いた裸婦の習作の上に、描いたものである。帰国後は太平洋画会会員となり後進の指導にあたるとともに官展および太平洋展に出品を重ねた。1919（大正8）年帝国美術院会員、1937（昭和12）年帝国芸術院会員。1943（昭和18）年没。

石井柏亭《画室小集》1949（昭和24）年

石井柏亭

1882（明治15）年東京生まれ。版画家、洋画家、美術評論家。戦中長野県に疎開先し、戦後の長野県の美術界にも積極的に関わり大きな影響を与えた。1935（昭和10）年帝国美術員会員となり翌年一水会を設立。本作に登場する人物は、石井柏亭に師事した一水会の人々により結成された双台社研究所に集った面々。卓上のクールベやマネの画集、壁のヴェラスケスの肖像画の複製、人物の写実的な描写からは、当時の抽象画流行に対峙する姿勢がうかがえる。1937（昭和12）年帝国芸術院会員。1947（昭和22）年日本芸術院会員。1958（昭和33）年没。

池上秀畝《四季花鳥》1918（大正7）年

池上秀畝

1874（明治7）年長野県高遠町生まれ。日本画家。官展で活躍した。本作は第12回文展で特選を受賞したもので山水花鳥を得意としたこの画家の真骨頂ともいえる作品である。1944（昭和19）年没。

《イベント報告》

真宗の美 ―親鸞と福井、ゆかりの名宝―

平成26年9月26日(金)～10月26日(日)
主催：福井県立美術館、福井新聞社、ＦＢＣ福井放送、浄土真宗本願寺派福井教区
特別協力：浄土真宗本願寺派、本願寺、真宗教団連合福井県支部
後援：福井県教育委員会、(一社)福井県文化協議会

県立美術館では、福井新聞社、ＦＢＣ福井放送、浄土真宗本願寺派福井教区と実行委員会を組織し、鎌倉時代に開かれた浄土真宗に伝わる文化財を紹介する展覧会を開催しました。本展では、浄土真宗本願寺派、本願寺、そして真宗教団連合福井県支部の特別協力のもと、県内真宗寺院所蔵のゆかりの品々と本願寺派本山本願寺(西本願寺)の法宝物・美術品をあわせた、国宝2点、重要文化財9点を含む105点を一堂に展示し、真宗の歴史と信仰、その美を紹介しました。

会期中は、当館の手塚雄二特別館長による講演会「日本絵画の美」をはじめ、多くのイベントを実施しました。展覧会をよりわかりやすくご鑑賞いただけるよう、津田徹英氏の講演会「真宗の美術－見方・考え方－」や、担当学芸員によるギャラリートーク・解説会を随時開催し、その他にも本願寺とゆかりの深い古儀茶道藪内流 竹風会 福井支部主催の「お茶会」、あるいは「てらカフェ」等のイベントを通じ、多くの方にご来館いただきました。

また展覧会に向けた調査の過程において、「親鸞聖人坐像」(本覚寺蔵)など新たに確認された文化財も多く、新知見に富んだ学術的にも意義深い展覧会となりました。

会場入り口

ギャラリートーク

てらカフェ

それゆけ！ブブ広報部隊

菱田春草「落葉」偵察日記 補足

菱田春草が明治42年～43年頃に集中して描いた「落葉」屏風の連作は5点ある。平成26年は春草生誕140年であり、それらの制作順を裏付ける証拠の発見や「落葉」5点を揃えた東京国立近代美術館での展覧会が続き、ブブ広報部隊をはじめとする春草「落葉」贔屓(びいき)にとって実り多き年であった。

制作順の決定的な証拠は、明治42年9月から44年5月までの春草作品受注状況が記された「製作扣帳(せいさくひかえちょう)」で、今年3月に飯田市美術博物館(長野県)が春草の遺族のもとで発見した。それによると当館(福井県美本)と茨城県近代美術館(茨城近美本)が所蔵する「落葉」は、文展に出品された永青文庫所蔵作(熊本県立美術館寄託)の後に発注された。さらに落款の変遷から制作年を推定した今秋の東京国立近代美術館「菱田春草展」では、滋賀県立近代美術館所蔵・滋賀近美本⇒未完本⇒永青文庫本⇒茨城近美本⇒福井県美本という順番が示された。

さて「落葉」連作は、欧米遊学の経験を持つ春草が東西画法の融合を図った作品である。例えば未完本と永青文庫本の「落葉」の木や葉の表面の詳細な描写は西洋画的だが、幹の際(きわ)の隈取り的陰影は頗る東洋画的である。しかし、もし春草が現地で体系的に西洋画法を学ぶ機会があったならば、より立体感を出すための工夫―影における反射光の存在を意識すること―をして、西洋画寄りの表現にしたかもしれない。

春草は茨城近美本と福井県美本では極端に際を濃く塗る隈取り的陰影をやめ、ウロなど実際に暗い部分に自然な影をさすようになる。そしてこのまま隈と陰影の東西融合画法を前進させるのかと思いきや、一転して福井県美本に顕著な装飾的で平面的な表現になり、明治44年に道半ばで亡くなってしまう。つまり、後に続く者たちを刺激する数々の実験的な作品と、日本画における陰影表現が課題として遺された。

さて、明治期の春草が日本画法を基礎に置いたのに対して、現代では受験で石膏デッサンをみっちり学んだ日本画家たちが西洋画法を基礎に置き、破綻のない光と影の世界を描いている。それは西洋化が進んだ結果だが、今ではむしろ日本画の描法をどう使いこなしたらいいのか、という春草の時代と逆の悩みが生じているのは皮肉なことである。

(学芸員　佐々木美帆)

東京国立近代美術館の「菱田春草展」（平成26年9月23日～11月3日）では当館の「落葉」も展示されました。

平成26年度キッズミュージアム
「文字アートをつくろう！」

10月11日㈯、「真宗の美展」にあわせて、キッズミュージアム「文字アートをつくろう！」を開催。参加した17名の子ども達は、それぞれの心に留まるお気に入りの言葉を立体的に作り、大いに楽しみました。ポール広報部員も座右の銘「真心」を作成しました。

[日時/参加人数] 10月11日㈯ 午前9時～／17名
[講師] 内藤秀信（ペーパークラフトモデラー）、西村直樹（学芸員）

福井県立美術館 友の会

〈平成26年度 秋の見学会〉

日　時◎平成26年11月6日㈭　参加人数◎46名
行き先◎京都市立美術館「ボストン美術館　華麗なるジャポニズム展」／京都国立博物館「国宝鳥獣戯画と高山寺」「平成知新館オープン記念展　京へのいざない」

国宝重文だらけの今回の旅はわりに余裕のあるスケジュールであったため、心行くまで展覧会を堪能する人、集合時間までの隙間に京都の町を散策する人などなど、それぞれの京の一日を楽しまれていたようです。また昼食の一流ホテルのバイキングも好評でした。

京都市美術館の前にて

京都国立博物館の前にて

国宝「鳥獣人物戯画」にたどり着くまでの行列で、この先「50分待ち」の看板を見つけて脱力するブブ広報部隊。友の会の皆さんから飴や励ましをいただいてなんとか目的の作品にたどり着くことができました。

お知らせ

平成27年度 実技講座受講生の募集

福井県立美術館では「日本画」「洋画」「素描（デッサン）・水彩画」の基礎講座（4～6月・10回）、専門講座（9月～翌年2月・25回）の受講生を募集します。

各講座／定員 20名

～詳細は2月以降に当館に備えてある募集要項やホームページをご覧ください～

平成27年度 会員募集のお知らせ

福井県立美術館
友の会

詳しくは、事務局（TEL.0776-25-0452）までお問い合わせください。

年会費	一般会員 2,000円／家族会員 4,000円／特別会員 10,000円
特典	①展覧会　●企画展無料入場券配布（一般会員1枚、家族会員3枚、特別会員8枚） ●美術館主催・共催展2割引　●テーマ展無料　●企画展鑑賞会（定員20名） ②友の会ニュース（随時）、美術館だより（年3回）送付 ③ミュージアムグッズ2割引（常設展のみ） ④実技講座、美術館見学会（年2回）への参加［実費負担］
申し込み	3月1日以降

◎2015年1月～3月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。
1月1日㈭、2日㈮、19日㈪、2月12日㈭、13日㈮、19日㈭、3月2日㈪、23日㈪～25日㈬、30日㈪、31日㈫

貸館情報 [1/7~3/29]

1/7～12	山内和子の歩み
1/8～12	新生ふくい創美会展
1/10～12	第7回 キルトリーダーズ福井　作品展
1/16～18	第62回福井奎星展 会員・公募展
1/16～18	新春　尚山会愛石展
1/23～25	ほおずき癒しの灯り展
1/23～25	書勢会展―競書展・会員展
1/28～2/1	第8回スプリングアート展
1/28～2/1	柳町邦光写真展―四季の野鳥たち
1/28～2/1	神内巍個展「福井の自然に魅せられて」
1/28～2/1	勝木禮子の書展
2/6～8	第7回にんげんだもの展
2/6～8	福井工業大学建築環境学科卒業研究展
2/7～11	2015 毎日現代書北陸代表作家展
2/10～11	福井高校デザイン分野第48回卒業制作展 第8回OB展・在校生作品展
2/14～15	科学技術高校テキスタイルデザイン科卒業制作展
2/14～2/16	第35回日本墨書会展
2/20～22	福井デザイン専門学校 創作展
2/20～24	福井県庁退職者連盟会員第5回作品展
2/25～3/1	第33回 映彩会水彩画展
2/25～3/1	福井大学教育地域科学部美術教育サブコース卒業・修了制作展
2/27～3/1	福井大学書道研究室・書道部平成26年度修了・卒部・卒業制作展
3/6～8	第32回一書会展
3/11～15	第39回琢の会洋画展
3/12～15	第28回新彫会彫刻展
3/17～22	三田松一郎 エンボッシング Ⅱ
3/17～22	日本一の自然100景、福島健介写真展
3/19～22	絵画グループA作品展「油彩画」
3/26～29	フレンドパッチワークキルト展
3/26～29	第50回記念 福井造形展
3/27～29	第34回鳳友会展
3/27～29	第11回藤島高校書道部展

本誌は再生紙を使用しています。
編集／発行：福井県立美術館　〒910-0017 福井市文京3丁目16-1　tel.0776-25-0452　印刷：河和田屋印刷株式会社　発行日：平成26年12月26日　14.12.20220